親が健康でないと、教育環境が危うくなる子どもたち

医療的ケアの必要な我が子が地域の学校に通学している母親から、次のようなメールが届いた。

「左膝靭帯断裂のアクシデントで思うように動けないでいました。今月に入り装具をつけ、ようやく抱き上げることができるようになりました。親が健康でなければ教育を受けることさえ危うい環境にいることなどを、実感させられました。」

またまた、親の想い、努力に頼る医療的ケアを必要とする子どもの義務教育保障に関する、法や制度の谷間、隙間の新たな具体的問題点の実態を知らされた気がした。

親が送迎し、学校で待機する必要のあるケースの場合、派遣看護師が数時間は対応するシステムができていても、親（特に母親）が長期の怪我の場合、代行送迎システムまで制度として考えられていませんよね。

その期間、訪問教育に切り替えてくれる柔軟性、機敏性が、今の教育行政界にあるかなぁ～。また、こうした時、担当教師は何を考え、学校内でどう管理者と話し合ってるのかなぁ～。

養護学校に通う子どもとて同じ問題と想像します。

送迎バス停までの送迎を誰がしてくれるのでしょうね。

バスに乗ってきた付添教師が、通学準備の援助や送迎バス停から家までの送迎を代行してくれるのでしょうかね。

確かに、支援費制度でガイドヘルパーを活用し、自費で介護タクシーを利用ということも考えられなくもない。

でも、行政の福祉担当者が、支援費制度利用時間数変更手続きに、わざわざ家に来てくれそうもない。また、通学させたいのなら、長期の更なる「出費は家族が負担せよ！」というのでは、一体義務教育遂行の責任は誰なの？と聞きたくなる。

母親が怪我で歩けない時、こんなにも煩わしく、面倒なことを親に考えさせたり課せないと、その子どもの教育を受ける環境が整わないのでは、本当に義務教育保障を唱う社会、また「地域福祉」になっているのでしょうかね。

こうした事情が生じた場合、教育を受ける環境を整え、義務教育保障には、実質的にどの部署が担当し、どう責任をもって支援するシステムになっているのでしょうか？

支援の情報等をお持ちの方、また、実際にこうしたケースに対応した事例情報をお持ちの方は、情報提供をお願いします。

（追伸；いただいた情報等は、２Ｐ～に記載しています。）

（2005 年 9 月 22 日　記）

「親が健康でないと、教育環境が危うくなる子どもたち 」へのコメント

当 HP 記事「親が健康でないと、教育環境が危うくなる子どもたち 」を目にしてくれたメル友から、早速、情報提供等をいただいています。

みなさまに参考までにご紹介します。

なお、今日時点の返信を紹介していますが、更に他のメル友からアドバイス等をいただきましたら、随時このファイルに追加記載・更新します。

２００５／９／２４　記

①確かに親が病気の時、子どもの生活全般が困りますね。

１０年前、父が病気で長期入院、母の手ひとつで障がいがある子を含む３人兄弟を育てているケースがありました。その母が急病で入院してしまいました。

学校の側の病院に、その子をショートステイさせたわけです。

担任は毎日その病院に行って、身繕いをし、登下校を受け持って通学させていました。

学校ではそれまで児童生徒の登下校にはタッチしないとのことで、その病院にショートステイしても、欠席にしていたそうです。

学校や学校の教職員と、その担任はもめたわけです。結局、様々な阻止の妨害を振り切って、母が退院するまで担任は登下校を受け持ちました。

現在、その学校では、病院ショートステイの児童生徒を学校・保護者・病院の協力で登下校させるシステムになっています。

医療ケアが必要な子どもの場合、クリアすべき課題はさらにあると思いますがいろいろな形態の教育が認められてきているので工夫すれば、教員の訪問等可能と思います。

例えば不登校の子どもへの家庭訪問しての教育的対応を授業を受けた日数に読み替えることも可能なわけですからそういうことを逆に適応して授業を実行すればと思います。

②記事は直ぐ読みました。

しかつめらしく、システム云々をいわなければいけないこと事態、事実なのかもしれませんが、ちゃんちゃらおかしいです。

大のおとなが寄り集まって喧々諤々議論しなければならない問題でなく、簡単によきに計らってあげて欲しいです。

身近な話で言えば、○○養護学校の訪問学級の生徒が△△に短期入所すると、ほとんど毎日病棟にきてくれる先生もいます。

③隣接であろうが併設であろうが，学校は学校，病院は病院，施設は施設なのでしょう。（もちろん，隣接も併設もしていなければ，もっと状況は深刻かもしれません。）

箱の中にいると，その箱の中でしか見ることができなくなる。

本当に大切なことは，その箱の両方を利用して生活している「子ども（人）」を見ること

だと思うのですが。

箱ごとの制度に縛られることなく，「子ども（人）」の生活を護るために必要な自由な視点を私たちは持つ必要があると思うのですが。

④親の怪我による送迎の件ですが、日本は先進国としては本当に立ち遅れています。

具体的な支援策は今すぐ出せませんが、まずは地域の行政に聞く、アピールすることと思います。そこのレベルで駄目なときは県レベルとやるしかないと思います。